《研究ノート》千葉県佐倉市木戸場遺跡A地点「第1・第2ユニット」から

橋　本　勝　雄

はじめに

佐倉市木戸場遺跡では，湧別技法を背景とした細石刃石器群が出土し，東北日本的な細石刃石器群の様相を具現する遺跡としてこれまで紹介されている。また同時に，太平洋側では群馬県頭無遺跡とともに分布域の南端に位置している点も注目に価しよう。

すでに報告書は昨年度刊行され，概要については周知の事実であるが，筆者は如上の重要性に鑑み，より詳細な分析を試みようと考えるに至った。

ただし今回は種々の制約もあり，必ずしも十分な資料操作を行ったとは言い難い。経過的な措置としてご寛容願いたい。

1．石器群の様相

① 遺物分布状況（第1図）

第1ユニットは第2ユニットと比べて分布の集中度が高い。集中部分では剥片類が主体となって分布しており，このなかに敲石，台石が共存する。対照的に細石刃核及び利器については外郭に位置する傾向にある。

一方，第2ユニットでは相対的に散漫に分布しており，器種ごとの分布に偏りは見られない。

以上の出土状況に加えて，細石刃，削片が第1ユニットに偏在していることを考えあわせると，第1ユニットの様相は細石刃生産とその他の石器製作－特に調整段階－を反映しているものと推察される。

② 石器組成（第5・6表）

a．細石刃石器群

細石刃核2点と細石刃3点が出土している。ただし，両者の母岩別資料組成の対比によれば，本来の細石刃核の数量は3点であったことになる。このほか，細石刃生産第1～第3工程を反映する未成品，削片（ファースト・スポール，スキー状スポール），母型，ブランク，石核，素材剥片の欠落が指摘される。

b．利器

細石刃石器群以外の珪質頁岩製石器群に関する全体的様相としては，利器の比率が高率である点が特筆される。（第1ユニット17：49，第2ユニット20：47）

次に個々の器種について検討していく。まず，彫刻刀形石器に関しては，荒屋型彫刻刀と不定形のものとが存在するが，前者が後者を数量的に凌駕する。また，削片については後述する母岩別資料石器組成表を見ると，彫刻刀形石器と良く対応し，遺跡内で一つの彫刻刀形石器より少なくとも1～2枚程度の削片が剥離されたことをうかがわせる。

掻器に関しては，二側縁が著しく内湾する角二山型が特徴的であるほか，円盤形，二側縁が外湾ないしやや直線的なものなどが存在する。また削器については，尖頭状削器（Convergent scraper）の数量が顕著である。このほか二側縁が平行するものがある。

c．剥片

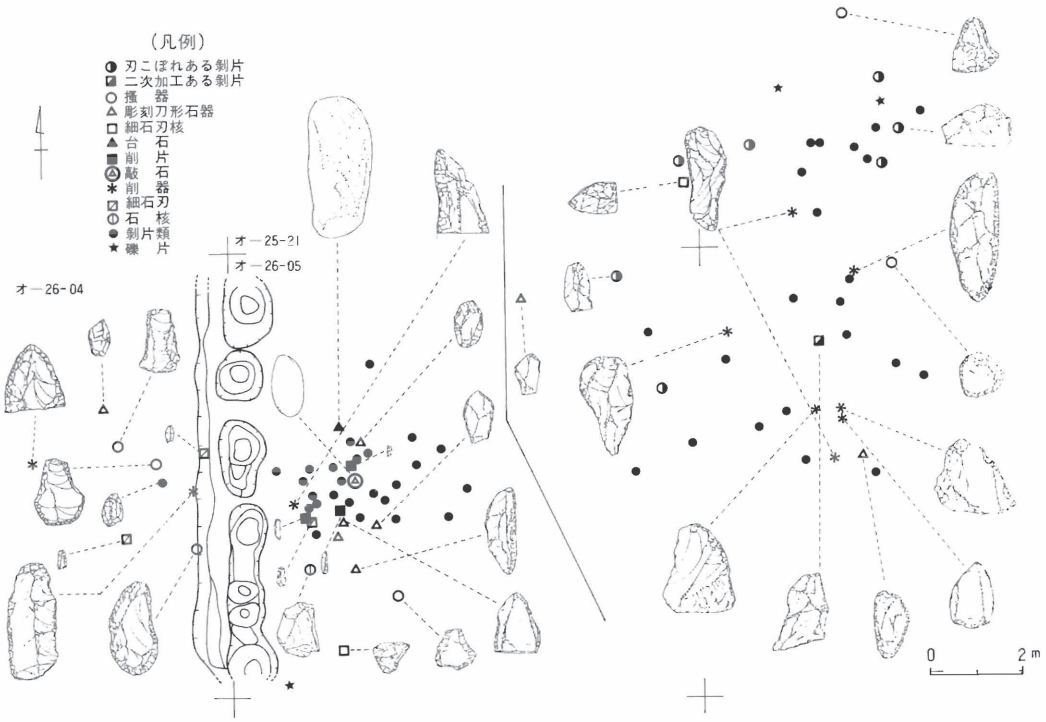
剥片については，利器の素材として規格的（大きさ，厚さ等）に保証されたものがなく，おおむね石器調整剥片と認定できる。技術的特徴としては，傾斜打面（打面調整の頻度が高い）を呈し，バルブが散漫で先端部が先細りの傾向にある。

また，利器の一部に見られるような背面側もしくは打面部に自然面を有する剥片はほとんどなく，複数の剥離面によって構成される。すなわちこのことは剥片がかなり調整の進んだ段階に剥離されたことを物語っていよう。

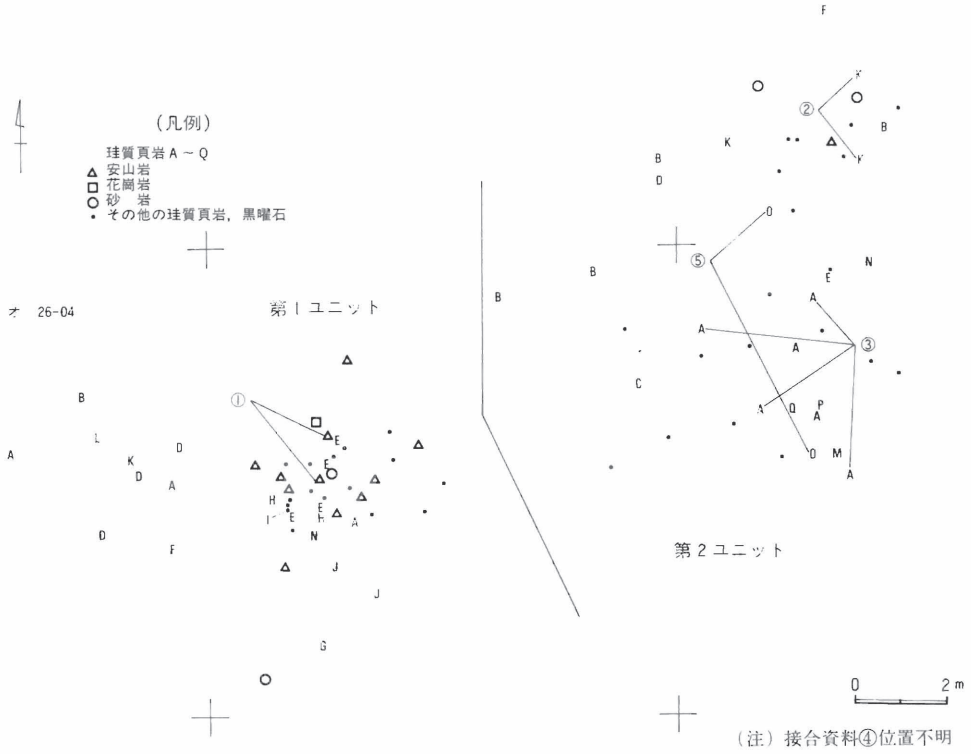
③ 技術的特徴

a．細石刃生産技術

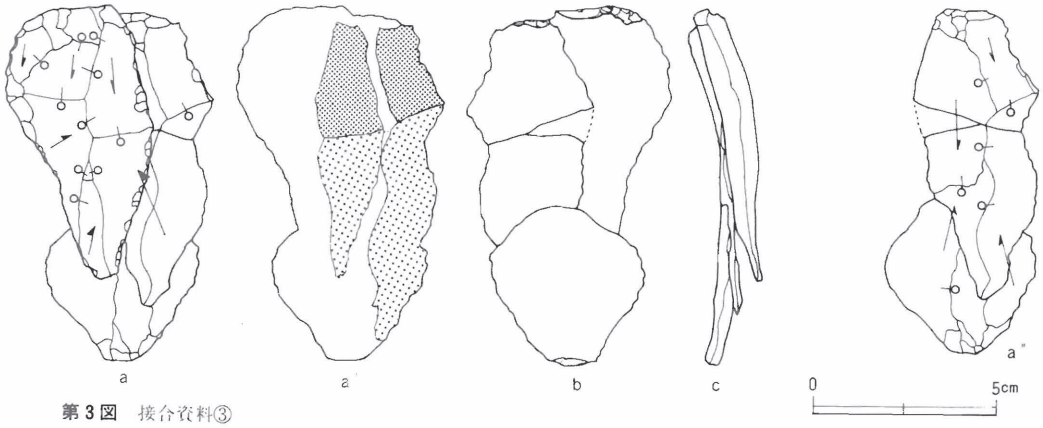
細石刃生産工程については，全工程を復元しうる資料はない。「第二段階の側面調整」が第2ユニット出土の細石刃核に観察できること。細石刃剥離面が階段状剥離を呈し，大きさがかなり小型



第1図　第1・第2ユニット石器出土状況



第2図　第1・第2ユニット母岩別資料・接合資料分布図



第3図　接合資料③

化していることから細石刃生産の終了の段階に限りなく近いことを指摘するに留めておく。

b．珪質頁岩製石器群の技術的特徴

（剥片生産技術）石核が出土しておらず，技術基盤の解明は困難である。したがって，ここでは利器の分析に重みを持たせざるをえない。

利器の分析結果からみた剥片生産技術の大要は以下のとおりである。

打面は主要剥離面側にむかって低く傾斜しており，平坦打面ないし調整打面となっている。自然面打面はない。また背面側の面構成によれば，打面転移はかなり頻繁に実施され，かつ打撃方向は求心的か，もしくは180度逆の方向で互いに交錯する傾向にある。

さらに母岩別資料個々の分析結果をふまえると，一見石刃様を呈する資料についても，前述の技術基盤の一部に組み込まれるものと判断される。

以上のデータと石刃技法を背景とした石器群の存在が明らかでないことを考えあわせれば，素材剥片が円盤状石核ないしはコア・ブランク製作途上の副産物として生産された公算は極めて高い。接合資料③（第3図）はこの種の技術基盤を如実に反映している。

なお同様の剥片生産基盤に対応する石核を「石刃石核の剥離が著しく進行した過程で残されたものとしてみる」（織笠1979）か否かは別として，例示すれば，山形県越中山S遺跡の「スクレーパー」や新潟県荒屋遺跡の「偏平石核」が該当しよう。（小野1973，織笠1979）

（石器調整技術）彫刻刀形石器については，彫刻刀面は背面側の左肩部に形成されている。概して（見かけの）single blow であり，角形彫刻刀を呈する。以上の傾向は類例と比較して矛盾しない。

掻器と削器については，先述したので重複は避ける。刃こぼれある剥片については前者に比して薄手で，小型の剥片を素材としている。

④　珪質頁岩製石器群に関する母岩別資料・接合資料の検討（第2～4表）

母岩別資料については，原則として報告書の分類を尊重したが，第1・第2ユニットの互いの同時性を前提として，共通の母岩別資料番号を付した。母岩別資料は珪質頁岩では少なくとも17母岩を識別でき多様であることが理解される。

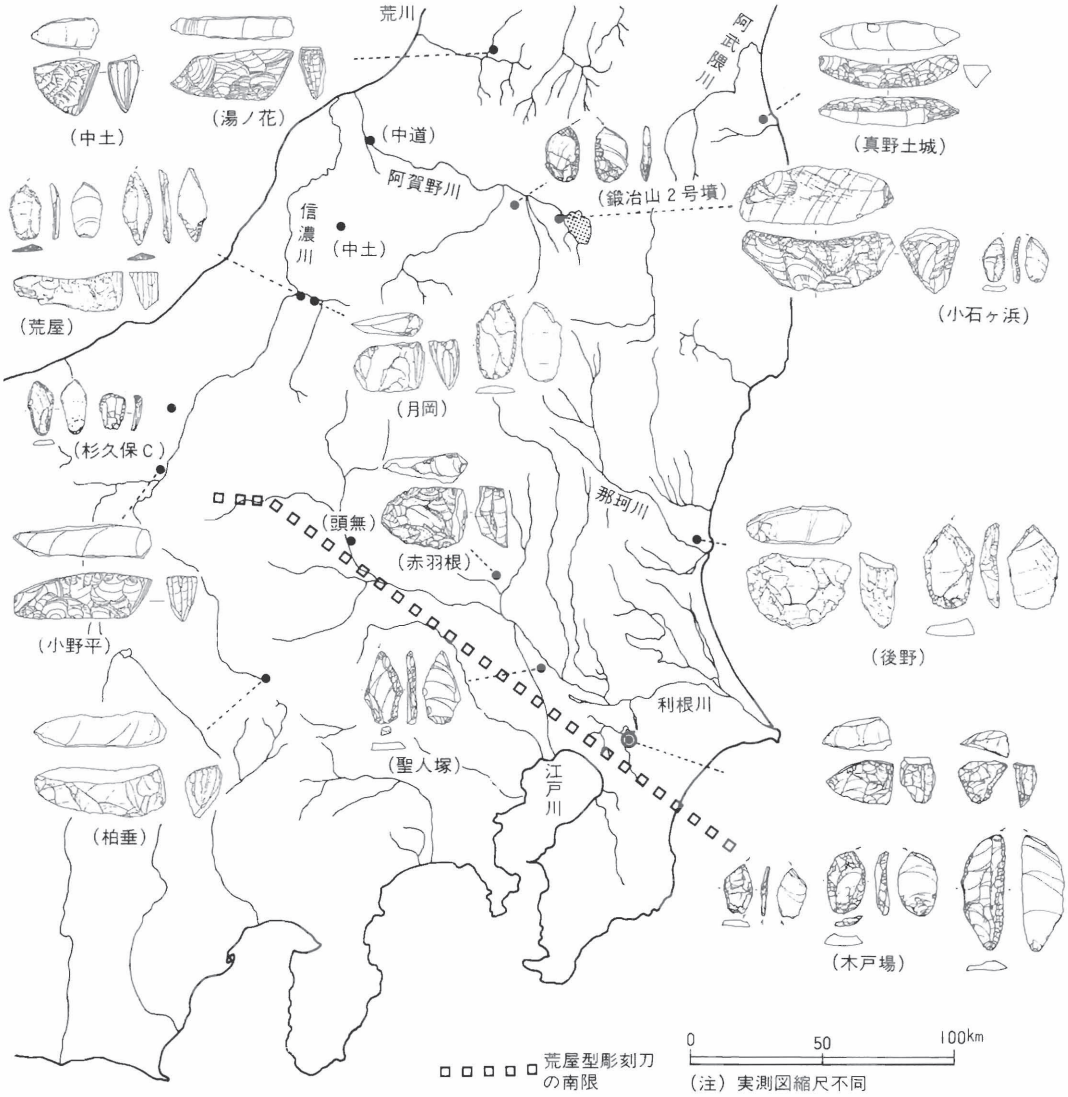
分布状況については，A，B，D～F，Kに共通性が見られる一方，C，G～J，L～Qに関して，ユニット間相互に偏在性がある。

第1ユニットが石器調整，細石刃生産の状況を色濃く反映していることについてはすでに述べた。一方第2ユニットは好対照であり，利器を中心として散漫な分布状況を呈する。

分布上，特に集中する傾向にある母岩別資料は第1ユニットではE，第2ユニットではAとなっており，前者は彫刻刀形石器1，削片2，削器1，細石刃1（註1）。後者は削器1，剥片2個体，二次加工ある剥片1という器種構成となっている。

また，母岩別資料石器組成表より検討すると，細石刃石器群に関しては，Dが良くまとまっており，細石刃核，細石刃，細石刃剥離面再生（？）剥片を有する

なお接合資料については，各ユニット内部でそれぞれ接合していることを付記するに留める。



第4図 木戸場遺跡と関東を中心とした関連遺跡

2．関連遺跡の分布状況（第4図，第1表）

木戸場遺跡は太平洋側における東北日本的細石刃石器群の分布圏の拡大を意味する資料として極めて重要である。

太平洋側では目下のところ図示したように大略利根川水系が南限といえそうであるが，他方，日本海側では遠く岡山県恩原遺跡が南限として報じられており，より広範な分布圏をえがいている。（稲田1986）

さて本遺跡の石器群の様相（舟底形細石刃核の加撃面作出方法，石器組成－特に荒屋型彫刻刀の存否，etc）について関東地方を中心として，類例を集成してみると，角二山遺跡を中心とした山形県下の諸遺跡や図示した例（新潟県荒屋，月岡，茨城県後野，栃木県赤羽根，長野県小野平，杉久保C，群馬県頭無遺跡他）に特に強い類縁性が認識される。これらの諸遺跡では，石器の用材として東北地方に多産する珪質頁岩（硬質頁岩）が使用されている点に注目すべき特徴がある。

ところで東北地方以南の類例のうち質量ともに備わる角二山遺跡と本遺跡とを比較すると，細石刃石器群と荒屋型彫刻刀以外では，掻器，尖頭状削器などに共通性が見出されるものの，数量，石器組成における器種の欠落が顕著であり細部にわたる比較検討には堪えない。

遺跡名	所在地	発掘・採集	出土遺物	文献
湯ノ花	山形県西置賜郡小国町	発掘	細石刃核，細石刃，他	①
中道	新潟県北蒲原郡安田町	採集？	細石刃核（詳細不明）	②
中土	〃 南蒲原郡下田村	発掘	細石刃核，細石刃，他	③
荒屋	〃 北魚沼郡川口町	〃	細石刃核，細石刃，荒屋型彫刻刀，他	④
月岡	〃 北魚沼郡堀之内町	〃	同上	⑤
真野土城	福島県相馬郡鹿島町	採集	稜付のスポール	⑥
小石ヶ浜	〃 会津若松市	〃	細石刃核，荒屋型彫刻刀，他	⑦
鍛冶山2号墳	〃 河沼郡会津坂下町	発掘	荒屋型彫刻刀，他	⑧
後野	茨城県勝田市	〃	細石刃核，細石刃，荒屋型彫刻刀，他	⑨
赤羽根	栃木県下都賀郡岩舟町	〃	細石刃核，細石刃，他	⑩
頭無	群馬県前橋市	〃	細石刃，荒屋型彫刻刀，他	⑪
木戸場	千葉県佐倉市	〃	細石刃核，細石刃，荒屋型彫刻刀，他	⑫
聖人塚	〃 柏市	〃	荒屋型彫刻刀	⑬
杉久保C	長野県上水内郡信濃町	採集	細石刃，荒屋型彫刻刀，他	⑭
小野平	〃 長野市	〃	細石刃核	⑮
柏垂	〃 南佐久郡川上村	〃	細石刃核	⑯

第1表 遺跡地名表　（註）小石ヶ浜例のみ「ホロカ技法」一色である

また，母岩別資料・接合資料分析あるいは工程復元等の詳細な資料分析が実施された例は，後野遺跡(後野遺跡調査団1976)，角二山遺跡（宇野・上野1975　剣持1978)など二三の例に留まり，数量的な保証のない本遺跡における技術基盤の復元をより一層困難なものとさせている。

ただし多くの関連資料に数量的保証がないことも一因であろう。

次に，細かな編年的位置づけの検討については今後の課題としておくこととして，図示した資料以外で，細石刃核の加撃面形成の手法をもとに類例を単純に列挙してみると，神奈川県大和市月見野上野遺跡第一地点（第2文化層）と東京都狭山B遺跡には本遺跡との強い技術的相関性が感じられる。(大和市教育委員会1986，吉田，肥留間1970)また中部高地の長野県柳又A，岐阜県開拓地B地点遺跡や近畿地方の兵庫県南大塚山古墳では「削片系」の舟底形細石刃核あるいはスキー状スポールが出土しており，(森島1985，石原・吉朝1984，今里1980)さらに，香川県羽佐島遺跡では，鎌木義昌・小林博昭によって「湧別技法の存在を示す」サヌカイト製舟底形細石刃核他が報告されている。(渡部他1984，鎌木・小林1984)

しかしながら以上の諸例がただちに北方の「湧別技法細石刃石器群」の南下を意味するかは，なお予断を許さない。というのは，一方で西北九州にあって同様の加撃面形成手法が見られる福井・泉福寺両洞穴の細石刃石器群との比較検討が必要とされるからである。その場合，石器組成（荒屋型彫刻刀の欠落）や石材の特徴が重要な検討課題となろう。

ただしこの問題を考えるうえで，先述の資料数はあまりにも零細である。したがって両者の相互比較については現状では保留とせざるをえない。

おわりに

きわめて雑駁な内容となってしまった。最後に以下の課題にそって検討を重ね，その責を補うこととしたい。

今回は湧別技法ないしは荒屋型彫刻刀を有する細石刃石器群について検討した。第4図で示した関東を中心とした地域においては，すでに解説をしたものの他に，「野岳・休場」細石刃石器群や「ホロカ技法」による舟底形細石刃核を有しこれに掻器・削器が主体的に加わる一群の他，新潟県荒川台遺跡出土の特殊例などがあり多様である。(阿部・高橋1986)

ところが，以上の細石刃石器群については互いの編年的・系統的関係が確定しておらず流動的である。そこで今後は東日本における細石刃石器群

個々の詳細な種々の分析をふまえて，「湧別技法細石刃石器群」の時空的な位置づけの解明を目指し，研究をさらに深めていこうと考えている。

なお本稿を草するにあたり，次の方々より多大な御協力とご助言を頂きました。記して感謝の意を表します。

萩野谷悟，小菅将夫，麻生敏隆，飯島義雄，堤隆，鈴木忠司，土井悦枝，桜井美枝，山田晃弘，柳田俊雄，小林博昭，阿部朝衛，森嶋稔，藤原妃敏，芳賀英一，芹沢清八，田代隆，佐藤宏之・他石器文化研究会の方々（順不同・敬称略）

註

1）母岩別資料Eの細石刃（報告書第75図－3）については，母岩別資料の石器組成と形態的諸特徴を加味すると，調整剝片ないしは削片の可能性が高い。

付記

脱稿後，新たに神奈川県大和市長堀北遺跡において湧別技法の関連資料が報道された。（11月26日付読売新聞朝刊）。また，群馬県北群馬郡子持村押手（おしで）遺跡における（珪質）頁岩製の削片系舟底形細石刃核の出土を知った。（子持村誌編さん室1987）

なお本文中では取り上げなかったが，「荒屋型に類似する」彫刻刀形石器として記載されている東京都小平市鈴木遺跡と新潟県南蒲原郡下田村藤平遺跡B地点や「立美遺跡類似に石器」とされている長野県上水内郡信濃町仲町遺跡における出土資料については，「荒屋型彫刻刀」としての検討の余地が残されている。今後の研究のために，ここで銘記しておく。（戸田1984，佐藤1981，野尻湖人類考古グループ1987）

引用文献

吉田格・肥留間博　1970『狭山，六道山，浅間谷』

小野一彦　1973「最上川・赤川流域における細石刃文化－とくに湧別技法を有する細石刃群の検討」『最上川流域の歴史と文化』pp．1～40（第11図55）

宇野修平・上野秀一　1975「角二山遺跡」『日本の旧石器文化』2　pp.96～111

後野遺跡遺跡調査団　1976『後野遺跡』

剣持みどり　1978「角二山細石刃石器群の構造」『山形考古』3－2　pp．9～26

織笠昭　1979「中部地方北部の細石器文化」『駿台史学』47　pp．81～98（第2図13）

今里幾次　1980「播磨における黒曜石器及び石材の分布」『播磨考古学研究』今里幾次論文集刊行会　pp．182～188

佐藤雅一　1981「五十嵐川流域の先土器時代遺跡」『三条考古学研究会機関誌』2　他

戸田正勝　1984『鈴木遺跡』V　小平市遺跡調査会

渡部明夫，他　1984「羽佐島遺跡(1)」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』1

鎌木義昌・小林博昭　1984「近畿・中国・四国地域の細石刃文化」『考古学ジャーナル』243　pp．8～11

石原哲弥・吉朝則富　1984「高根村の先史時代」『高根村史』pp．56～89

森嶋稔　1985「中部高地の楔形細石刃核」『信濃』37－11　pp．158～168

稲田孝司　1986「岡山県恩原高原の旧石器時代石器群」『日本考古学協会第52回総会研究発表要旨』pp．10，11

阿部朝衛・高橋春栄　1986「新潟県関川村荒川台遺跡の細石刃核」『考古学雑誌』71－4　pp．102～109　他

大和市教育委員会　1986『月見野上野遺跡群上野遺跡第一地点』

野尻湖人類考古グループ　1987『野尻湖遺跡群の旧石器文化』1（野尻湖発掘調査の成果　第1集）p.46（No.51）

子持村誌編さん室　1987「1.狩猟・採取と農耕の開始（1）旧石器時代」『子持村誌　上巻』pp．135，136

地名表関係文献目録

① 加藤稔，酒井忠一，宇野修平，佐藤禎宏，長沢正機，海野丈芳　1982「最上川・荒川流域の細石刃文化」『最上川』pp．768～819　他

② 新潟県　1983『新潟県史　資料編1　原始・古代1　考古編』図版608

③ 中村孝三郎　1965『中土遺跡』

④ 芹沢長介　1959「新潟県荒屋遺跡における細石刃文化と荒屋型彫刻刀について」『第四紀研

究』1－5　pp. 174～181
⑤　中村孝三郎・小林達雄　1975「月岡遺跡」『日本の旧石器文化』2　pp. 242～254 他
⑥　松本茂　1986「福島県浜通り地方発見の旧石器」『しのぶ考古』9　pp. 57～60
⑦　渡部光一・渡部聖史・星将一・芳賀英一・中村五郎　1978「会津若松市小石ヶ浜遺跡の石器」『福島考古』19　pp. 15～20
⑧　藤原妃敏　1987「鍛冶山古墳出土の石器」『鍛冶山2号墳』p. 31（福島県河沼郡会津坂下町教育委員会）
⑨　後野遺跡調査団　1976『後野遺跡』
⑩　田代隆　1984『赤羽根』栃木県埋蔵文化財調査報告第57集　pp. 332～336
⑪　『前橋・柳久保遺跡群』上毛新聞　1987.8.21
⑫　(財)千葉県文化財センター　1987「木戸場遺跡(A地点，B地点)」『佐倉市向山谷津・明代台・木戸場・古内遺跡』pp. 105～210
⑬　(財)千葉県文化財センター　1986「聖人塚遺跡」『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書』Ⅳ　pp. 49～111
⑭　森嶋稔　1985「中部高地の楔形細石刃核」『信濃』37－11　pp. 158～168
⑮　森嶋稔　1985「中部高地における二つの細石刃文化」『考古学ジャーナル』243　pp. 2～7
⑯　由井一昭・堤隆　1985「長野県南佐久郡川上村柏垂遺跡採集の細石刃石核」『古代文化』37－6　pp. 39～43

器種 / 母岩	細石刃核	細石刃	彫刻刀形石器	掻器	削器	削片	剥片	敲石	台石	刃こぼれある剥片	二次加工ある剥片	石核	礫片	計
珪質頁岩A			1		2									3
〃　B			1											1
〃　C														
〃　D		2					1							3
〃　E		1	1		1	2								5
〃　F				2										2
〃　G	1													1
〃　H			1		1									2
〃　I			1			1								2
〃　J			1	1										2
〃　K				1										1
〃　L				1										1
〃　M														
〃　N														
〃　O														
〃　P														
〃　Q														
花崗岩A									1					1
砂岩A								1						1
安山岩A												1		1
計	1	3	6	5	4	3	1	1	1			1		26

第2表　第1ユニット母岩別資料石器組成表

器種 / 母岩	細石刃核	細石刃	彫刻刀形石器	掻器	削器	削片	剥片	敲石	台石	刃こぼれある剥片	二次加工ある剥片	石核	礫片	計
珪質頁岩 A					1		1+(2)				1			5
〃 B			2							3				5
〃 C										1				1
〃 D	1													1
〃 E					1									1
〃 F				1										1
〃 G														
〃 H														
〃 I														
〃 J														
〃 K										1	(2)			3
〃 L														
〃 M			1											1
〃 N				1										1
〃 O					(2)									2
〃 P					1									1
〃 Q					1									1
花崗岩 A														
砂岩 A														
安山岩 A														
計	1		3	2	6		3			5	3			23

第3表　第2ユニット母岩別資料石器組成表

母岩別資料	接合資料	内訳	内容	数量
安山岩(その他)	①	剥片2	オ－26－05・27，オ－26－05－17 (新旧関係については未確認)	2
珪質頁岩 K	②	剥片破損資料	ワ－25－21－9＋ワ－25－21－4	2
〃 A	③	剥片2個体 削器1点	ワ－26－01－19→(ワ－26－01－4＋ワ－26－01－9)→ワ－26－01－21	4
〃 B	④	彫刻刀形石器2点	オ－26－05－46→ワ－26－01－1	2
〃 O	⑤	削器破損資料	ワ－25－21－17＋ワ－26－01－6	2

第4表　第1・第2ユニット接合資料一覧表

器種＼石材	珪質頁岩		安山岩		砂岩		花崗岩		黒曜石		計	
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
細石刃核	1	2.6									1	1.9
細石刃	3	7.9									3	5.7
彫刻刀形石器	6	15.8									6	11.3
掻器	5	13.2									5	9.4
削器	4	10.5									4	7.5
削片	3	7.9									3	5.7
剥片類	16	42.1	10	90.9							26	49.1
敲石					1	33.3					1	1.9
台石							1	100			1	1.9
刃こぼれある剥片												
二次加工ある剥片												
石核			1	9.1							1	1.9
礫片					2	66.6					3	3.8
計	38		11		3		1				53	

第5表　第1ユニット石器組成表

器種＼石材	珪質頁岩		安山岩		砂岩		花崗岩		黒曜石		計	
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
細石刃核	1	2.3									1	2.0
細石刃												
彫刻刀形石器	3	6.8									3	6.1
掻器	2	4.6									2	4.1
削器	7	15.9									7	14.3
削片												
剥片類	23	52.3	2	100					1	100	26	53.1
敲石												
台石												
刃こぼれある剥片	7	15.9									7	14.3
二次加工ある剥片	1	2.3									1	2.0
石核												
礫片					2	100						
計	44		2		2				1		49	

第6表　第2ユニット石器組成表